

公害・環境問題の 変貌と新展開

環境問題は公衆衛生の重要課題です。わが国の高度経済成長期の環境問題といえ
ば、水俣病やイタイイタイ病などで代表される
公害病や典型 7 公害(大気汚染、水質汚濁、土
壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭)への対
応が主要テーマでした。これらは特定の原因が
存在し、不特定の健康被害者が比較的狭い地域
に存在することが多く、原因の除去により健康
被害を防止・軽減できるという特徴がありまし
た。これに対して最近の環境問題は、人だけで
なく植物や野生動物などの広い範囲に被害をも
たらし、被害が広域に及び、国際的な共通課題
として認識されるものが多くなりました。

このような中、公害問題の原点とされる水俣
病を教訓として、昨年(2013 年)10 月に「水銀
に関する水俣条約：the Minamata Convention
on Mercury」が採択されました。水俣病と同
じような被害を繰り返してはならないという決
意を込めて、ミナマタの名が国際条約の冠に刻
まれました。水銀公害の被害が世界的に広がり
出したことへの強い危機感が伝わってきます。

また、近年の環境問題は、電磁波や低周波音
の健康影響のように因果関係の解明が今も研究
途上にあるもの、中国の大気汚染あるいは原発
事故に伴う放射能汚染のように影響の範囲が国
境を越えて広域に及ぶもの、さらに温暖化や気
候変動のように地球規模で捉えるべき課題が多
くなっています。

そこで本号の特集では、水俣病などの公害対
策の歴史的教訓を踏まえた環境政策の将来展
望、地球規模の様々な環境問題への対応、健康
影響に関する評価が研究途上にある環境問題な
どを取り上げ、過去の貴重な教訓と最新の知見
を織り交ぜながら、公衆衛生従事者向けの解説
をお願いいたしました。



イラストレーション：ペドロ山下